

【 授業改善の視点 】

- 学習指導要領を踏まえた授業改善
[育成すべき資質・能力] … 3つの柱
 - (1) 知識・技能の習得
 - (2) 思考・判断・表現力
 - (3) 学びに向かう力、人間性等
- 「主体的・対話的で深い学び」による授業の構築
 - ・「本時のねらい」を明確にし「振り返り」を確実に行う。
 - ・授業規律を確保し、落ち着いた学習環境の整備をする。
 - ・道徳科では、ねらいに沿った中心発問と議論を意識した授業展開を行う。
- 教科で身に付けた力を生かす課題解決的な学習活動
 - ・生徒が深く考えることのできる適切な課題を設定する。
 - ・課題を考えるための「主発問」を工夫する。
 - ・SDGsの関連項目を位置付け、教科横断的な指導の充実を図る。
- 管理職による授業観察、教員相互授業観察及び外部講師を招聘しての研究授業等の実施
 - ・年3回、管理職による授業観察を実施。授業後、改善に向けた指導を行う。
 - ・教員による相互授業参観を、授業観察シートを活用しながら実施する。
 - ・生徒による授業アンケートを実施、分析・改善を図る。
 - ・道徳科の授業では各学年でローテーション授業を実施するとともに、外部講師を招へいし、授業力の向上に努める。
 - ・OJT研修等を通じて、1人1台端末等、ICT機器を取り入れた効果的な指導の研修を行う。
- 学習評価の実施
 - ・指導と評価の一体化を図り、評価の精度を高める。
 - ・学習指導要領における「評価」「評定」についての研修を行い、信頼される適正な評価ができるよう実践を積み重ねる。

上記【授業改善の視点】をもとに、全生徒に以下の内容で授業アンケートを実施し、その結果等を踏まえ、授業改善推進プランを作成した。

(アンケート内容)

各授業において、次の8項目について

- ①よくあてはまる ②あてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

のいずれかで回答するよう実施した。

(項目1～4は生徒個人の反省、項目5～8は教員の授業内容に対する反省)

- 項目1 私は、良い態度、積極的な姿勢で授業を受けた。
- 項目2 私は、先生の説明や授業の内容を理解することができている。
- 項目3 私は、友だちや先生の話参考にして、自分の考えを深めようとしている。
- 項目4 私は、課題に対して粘り強く考え、取り組もうとしている。
- 項目5 授業では、各時間のねらいが明示されている。
- 項目6 授業で使用している教材(写真・動画・クロームブックの活用等)やプリントは分かりやすい。
- 項目7 授業の中に、生徒間での話し合い活動が取り入れられている授業がある。
- 項目8 授業のまとめは分かりやすく、もっと知りたいと思う。

国 語	教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。
	<p>【生徒の現状(アンケート結果を含む)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が、自分は良い態度で授業を受け、授業のねらいや内容が理解できていると思っている。 どの学年においても課題に対して粘り強く考え、取り組もうとしていない生徒が一定数見受けられる。 学年が下がると、ねらいが提示されているにも関わらず、提示されていないと感じている生徒がいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の方法が身に付いていない。 授業時間数の関係から時間をかけて取り組んだり話し合ったり発表したりする機会が少ない。 まとめや振り返りが不十分なまま進めていることがあり、分かりにくさや理解不足につながっている。 1単位時間のねらいを理解していない生徒がおり、学びが深まっていけない。 	<p>【具体的な授業改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な内容を繰り返し学習する機会を増やし、目に見える形で成果を確認できるようにする。 授業中、課題を発見したり考えたり話し合いや発表したりする時間を増やす。内容の精選を進め、重要な部分に時間をかける。 ワークシートを作る際にまとめや振り返りの欄を作って活用する。古典や文法など理解が難しい単元ではより詳しく説明したり、授業内に復習の時間を取ったりすることで、理解と定着につなげる。 本時のねらいを声に出して確認させる。意見交流の後に気付きや自分の考えを書き記すための欄をワークシートに設ける。

社 会	教科の目標	基礎・基本を重視し、多角的な見方・考え方をする活動を通し、グローバル化する国際社会で主体的に生き、民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民として資質・能力を育成する。
	<p>【生徒の現状(アンケート結果を含む)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2年生に関しては、まじめに取り組み、学習意欲もあり、授業のねらいについての理解も少しずつすすんできており、主体的に取り組む態度も見られる。 3年生は学習意欲もあり、まじめに取り組んでいる。話し合いなどを通じて、考えを深めようとしているが、内容の理解については個人差も見られる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1・2年生は内容や様々な事象・出来事についてのつながりや相互の関連性についての理解がなかなかできない生徒が見られる。 また、3年生に関しては授業の内容についての理解がなかなか進まずにいる生徒も見られる。 	<p>【具体的な授業改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の学習を重視しながらも、学習した内容について更に考えさせ、周囲との対話を通して様々な考え方、多角的な見方を学ぶような機会を授業中に増やし、実践していくことで、相互のつながりや関連性を学ぶようにしていく。これは1つの単元において1回は実施し、学力の向上を目指していく。 授業で学んだ学習内容等について、その理解をより深めるためにその内容の「まとめ」や「振り返り」をしっかりと行い、その着実な実施により、各生徒の「学習の定着化」を図るようにしていく。

数 学	教科の目標	①数量や図形に関する基礎的な知識や表現・処理する技能を身に付ける。 ②数学を活用して、論理的に考察したり、統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ③数学の楽しさや数学の良さを実感し、粘り強く考える態度を養う。
	【 生徒の現状(アンケート結果を含む) 】 ・アンケートでは、各学年ともに「私は、先生の説明や授業の内容を理解することができている」や「授業で使用している教材はわかりやすい」の項目が高い結果となっている(95%以上)。 ・全体的に授業の内容を理解しながら進めることができている様子がわかる。 【 課題 】 ・「私は、課題に対して粘り強く考え、取り組もうとしている」「授業の中に、生徒間での話し合い活動が取り入れられている授業がある」の項目が比較的低い傾向にある(90%) ・授業の内容は理解しているが、その反面粘り強く取り組む姿勢とのギャップがある。	【 具体的な授業改善策 】 ・実情として、練習問題に取り組む時間などは、共に考え、工夫している様子がある。まずは教員がその様子を認めていく必要がある。 ・自ら粘り強く取り組む姿勢を養うため、自らその授業中の行動目標を立て、自分が目標を達成できたかを分析し、分析の結果をもとに次の手立てを考えたり、解き直しをしたりする、いわゆるPDCAサイクルのような学習サイクルを生徒に実践させる。 ・一斉授業で知識技能を身に付けさせる内容と、知識技能をもとに考えを共有しながら協同的に活動する内容のメリハリをつける。

理 科	教科の目標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
	【 生徒の現状(アンケート結果を含む) 】 ・生徒全体の学習意欲が高く、生徒同士の教え合いなどによる効果が高い。また、授業のねらいを理解し、さらに深めようとする生徒、もっと知りたいと思う生徒が多い(授業評価アンケートより、肯定的な意見が90%以上見られる)。 ・基本問題は正解が多いが、応用問題になると不正解者が増える。(特に化学式などが苦手な生徒が多い)。 【 課題 】 ・二極化現象が見られる。疑問や課題を未解決のまま後回しにしていたり、わかるところだけ取り組んだりしている生徒が見られるので、そのような生徒への働きかけの工夫が課題である。 ・全体では、科学的な思考力が伸び悩んでいるので、思考力を上げることが課題である。 ・化学式や電流など、目に見えないミクロの世界のイメージを、どのように捉えさせるかが課題である。	【 具体的な授業改善策 】 ・反復学習と、主に2年で行っている自動採点を利用することでフィードバックがすぐに得られるようにすることで、基礎内容の定着をはかり、学習に対する達成感を味わうことができるようにする。 ・視聴覚機器、動画、シミュレーション、パワーポイントなどを活用することによって視覚化を図ることで、意欲を高めるとともに、思考力の向上につなげていく。

英 語	教科の目標	英語を使って、身近なことを表現したり、自分の考えや思いを伝える力を身につける。	
	【生徒の現状(アンケート結果を含む)】	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートにおいて2年生の授業理解に対する自己評価が89%と他学年に比べ低い数値であった。2年生になり、語彙が増え、文法も複雑化する中で理解に至っていない生徒が一定数いることが分かった。定期テストにおいて30点未満の生徒は提出物の提出状況も芳しくない。 都の「学力向上を図るための調査」では、「英語の授業の内容がわかる」と返答した生徒の割合は都の平均76.5%に対し、本校の生徒は85%、「英語の学習を得意だ」と返答した生徒の割合は都の平均49%に対し本校の生徒は58%を超えており、英語学習に前向きな生徒の割合は高い。 	【具体的な授業改善策】
	【課題】	<ul style="list-style-type: none"> 英語を書くことに苦手意識があるために提出物に取り組めない生徒がいる。また、読む・書くが中心となる定期試験における点数の向上に結びつかない。 即興で英語を使用することに苦手意識がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でノート指導やワーク指導など提出物につながる活動は定期的に声掛けをしたり、授業中に取り組み時間を組み込む。識字、書字に課題がある生徒が英語学習への意欲を継続させるために、音読指導を丁寧に行う。 A L Tの授業などで即興の問答やスピーチなどに取り組む機会を設けていく。 英語を話せた、使えたという達成感をもたせることを意識して授業の進め方を検討する必要がある。 授業内容を用いて課題を解決する際、生徒にとってその課題に取り組む意味や必然性があるようなものを設定する。生徒が知りたいと思い、モチベーションを維持できるような授業の進め方を検討していく。 実際に使う場面を想定したり、生徒の日常に即した内容やスモールステップで課題に取り組めるようにワークシート等を工夫する。

音 楽	教科の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	
	【生徒の現状(アンケート結果を含む)】	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に臨み、内容が理解できていると回答した生徒が多く、自己評価はどの項目も高い。話し合い活動に対しては、学年によって取り組む時間に差があった。教員の評価もおおむね良好である。 	【具体的な授業改善策】
	【課題】	<ul style="list-style-type: none"> 授業に消極的で自己評価が低い生徒がどの学年にも見受けられる。 話し合い活動が学年によって差がある。 コロナが5類になったが、ほとんどの生徒がマスクを着用して歌っていて、発声の指導が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間提示している授業のねらいを生徒にも意識させ授業を進めるとともに、基礎を充実させどの生徒もできたという気持ちをもたせられるようにする。 話し合い活動が少ない学年は、パート内や少人数での話し合いを増やし、考えを共有することで生徒がより意欲的に取り組めるようにしていく。

美術	教科の目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化を豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	
	<p>【 生徒の現状(アンケート結果を含む) 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも、自己評価の項目については全て9割以上となる高評価であった。ただ、教員評価についての5「ねらいの明示」については、ほぼ毎回の授業で提示しているがそれを見ていない生徒が一定数(各学年ほど7～8人程度)いることが分かった。 <p>【 課題 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5の項目については各学年とも高評価が95パーセントを超えているので、ICT活用に関する試みが一定の成果をあげていることがわかる。一方で全ての項目で低い評価をつけている生徒が少数いるので、そうした生徒への個別の指導がしやすい指導方法を検討する。 	<p>【 具体的な授業改善策 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用については、制作活動の動画視聴や、鑑賞における画像拡大や、鑑賞文共有などの工夫をさらに重ね、生徒の状況にあわせて主体的に取り組めるようにする。それにより支援が必要な生徒などに個別に対応できるようにしていく。 ・「ねらい」と「目標」が同じであることがわかるような表示を加えて、改めて周知に務める。 	

保健体育	教科の目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる。 健康の保持増進のための実践力の育成。体力の向上を図り、楽しく明るく豊かな生活を営む態度を育てる。	
	<p>【 生徒の現状(アンケート結果を含む) 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな生徒が多い。90%以上の生徒が積極的に授業に取り組んでいる。反面、積極的でない生徒も一定数おり、二極化している。口頭の指示だけでは指示が伝わらない場面が多い。 <p>【 課題 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな生徒とそうでない生徒の二極化が進んでいる。運動が苦手な生徒たちが意欲的に取り組むようなアプローチの工夫が課題である。 ・授業の見通しやねらい等を理解できていない一面もあるので、見通しが立てられるようにする。 	<p>【 具体的な授業改善策 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が互いに交流し合う場面、教え合う場面、リーダーシップを発揮する場面を多数設定する。生徒が意欲的に取り組めるように、口頭の指示で伝わりにくいものに関しては、ICT機器の利用や板書等を用い工夫していく。ルールや場の設定を工夫し、生徒が意欲的に取り組めるようにする。 ・授業内容が同じであっても、毎時間必ず単元のねらいとその日のねらいを確認し、目標を立てさせ、それぞれが授業内で達成感を感じられる工夫をする。 ・ペアやグループで互いの技能を見て、認め合い、アドバイスをし合う場をつくる。 	

技術	教科の目標	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育てる。
	<p>【生徒の現状(アンケート結果を含む)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律は94%ができていますが、主体的な学び、ねらい明示、教材の工夫については80%台である。 ・授業理解、授業意欲、課題について粘り強さについても80%台で同様である。特に改善が必要なのは、対話的な学びについてであり73%と低くなっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学び及び個別支援の強化が課題である。 ・問題解決の課題が、技術全般の内容が多く、分野が広くてポイントが抑えにくいことが課題。 ・ねらいは毎時間掲示しながらも把握されていないことが課題。 	<p>【具体的な授業改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学びについては、生活をより良くするためにどうするかを考えさせ、情報共有だけにとどまらず、グループで課題解決する機会を設ける。 ・個別支援の強化、授業振り返りのしやすさについては、一人一台端末を活用することで実践するとともに、効果的な方法を模索していく。また、スマイリースタッフ等と連携を取り、より多くの生徒の個別支援が十分にできるようにする。 ・問題解決の課題が広く、ポイントが抑えにくい点については、課題をより限定的にしたり、最も時代に合った課題を設定することでわかりやすくしていく。 ・ねらいについては、より分かりやすいねらいの明示の仕方を考えて実践する。

家庭	教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指す。
	<p>【生徒の現状(アンケート結果を含む)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は悪い項目でも80%を超え、3年生はほぼ全ての項目について、95%を超えるような高評価ではあるが、3・4番の項目については、そこまで高評価なのは、自己評価への甘さを感じる。また、本時のねらいについては、毎時間表示しているが、ねらいの表示を意識していない様子が見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に態度は良いと感じられるが、積極的な発言などは、もう一歩頑張れる気がする。理解している、指名されなければ積極的に挙手して答える生徒は少なく、主体的な表現力や質問力は鍛えていく必要がある。 ・1学期は、グループで話し合いをしたり、協力する活動が少なかった。2学期以降、話し合いの場面や学び合いの場面を作っていく必要がある。 	<p>【具体的な授業改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで実施できなかった調理実習がようやくできるので、本来行うはずの1年生はもとより、昨年度行えず積み残されていた分として、2年生も行い、3年生でも幼児のおやつ実習を入れるなど、3年間の中で調理に関しての未履修が改善していく。これにより、生徒間での話し合いや協力、他者に学ぶ場面も増えるものと考えている。 ・ICTの活用で、実習で理解しにくい部分を個別に繰り返し確認でき、理解の個人差に対応できるよう改善していきたい。